

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2006 年 7 月 7 日 (金) 2 限実施

千葉県立千葉東高等学校 第 3 学年 1,2,3,4 組対象

Katsunori.Kataoka ©

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - 学年，組，名前を記入する。
 - 学年，組の該当個所をマークする。
 - 出席番号をマークする。(10 番以上は 10 の位と 1 の位の 2 カ所)
 - 男女の欄をマークする。
 - 1.2.3 枚目のところはマークしない。
 - 停・欠・遅・早のところはマークしない。
 - 機械の読みとりミスの確認のため 解答欄はマークの左側に番号を記入しておく。
 - なおマークと数字の記入が異なる場合はマークを優先して採点します。以上が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 4 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。
- 5 7 月 13 日 (木) も早朝補習を実施します。希望者は出席のこと。夏休みの補習も随時募集中です。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第 1 問 次の文章を読み下の問い (問 1 ~ 問 8) に答えよ。(配点 20)

イエスはユダヤ人たちが待望していた神の国 神の支配 の接近を告知し、主の祈りのなかでその実現を祈るべきことを教えた。この限りにおいて、彼は (a)ユダヤ教黙示文学*の世界に住んでいた。しかし、彼の宣教は独自の特色を備えている。彼にとって神の国は単に接近しているだけではなく、すでに現在の事実となっている。彼の行う悪霊追放はそのしるしとして解釈される。「わたしが神の指によって悪霊を追い出しているのなら、神の国はすでにあなたがたのところに来たのである」(「ルカ伝福音書」11 章 20)。

このように神の国は、未来の事柄であると同時に現在の事実でもある、という。これは一見矛盾であるように見えるが、イエスにとって決定的に重要なことは、人はいまや神の支配に直面し、それを受容するか拒否するかを決断を迫られているということである。神の支配は人が距離をおいてその到来のときを算定したり、その光景を想像したりすることができるような事柄ではない。いまや態度決定の保留は許されない。最後の審判においては、ユダヤ民族の特権は認められない。救済の道は [1] である。

しかしイエスは神の審(さば)きよりも恵みを強調する。神は慈愛に満ちた天の父として、[A] 天にいます神すなわち聖なる超越的な神は、遠き神であると同時に、幼児が父親を呼ぶときに使う「アバ」ということばで、親しく、全き信頼をもって呼びかけることができる近き神でもある。迷い出た一匹の羊を懸命に捜し歩く羊飼、失われた一枚の銀貨を一心に捜す女、放蕩息子の帰宅を喜び迎える父親などに関する一連の譬(たとえ)は、神の国は人間の敬虔や功績に対する報酬ではなく、純粋な恵みの賜物として、「律法をわきまえない群衆」(「ヨハネ伝福音書」7 章 49) に与えられることを示している。したがってイエスは、(b)律法を守りえないゆえに神から見捨てられているとみなされていた取税人や罪人と食事をともにし、彼らに救いを約束する。

他方、自己の敬虔に頼り、それを神の前に誇り、その報酬として救いを得ようとする者は、神から退けられる。そこには高慢の危険がある。こうして (c)ユダヤ教的律法主義は批判され、ユダヤ教指導者たちはイエスのふるまいに憤る。

神の無限の恵みの賜物として神の国を約束された者は、それに対する感謝の応答として神と [2] への限りない愛を求められる。神への愛と [2] への愛は不可分であり、この二重の戒めよりも大事な戒めはない。そして愛は敵にまで及ばなければならない。「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」(「マタイ伝福音書」5 章 44) 。こうしてイエスは、

* 黙示とは初期のユダヤ教およびキリスト教において、神が選ばれた預言者に与えたとする「秘密の暴露」、またそれを記録したもの。黙示を記録した書を黙示文学という。黙示文学はユダヤ教・キリスト教・イスラム教の伝統において極めて重要であり、死者の復活、最後の審判、天国と地獄などの教義は黙示文学のなかで与えられている。

(d)愛を徹底的に重視する結果、ときにはユダヤ教律法の規定に反する言動をも示す。安息日に病人を癒し、法的、社会的に弱い婦人の立場を考慮して離婚を禁じ、人間相互の交わりを妨げる食物規定を批判する。しかし律法に対する批判的言動はユダヤ教からみれば流神(とくしん)にほかならず、とうてい許容できるものではなかった。これが (e)イエス処刑の決定的な原因になったと思われる。

問1 文中の[1][2]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- [1] 各人の罪の自覚と律法の遵守のみ 神に対する絶対的帰依のみ
 各人の悔い改めと信仰のみ 神の像に対する礼拝のみ
- [2] 生 命 隣 人 自 己 知 恵

問2 下線部(a)に関して、旧約聖書に登場する下の二人の人物に関する記述として正しいものを、次の～のうちから一つずつ選べ。(2006年センター本試験より)

- モーセ [3]
アブラハム [4]

山の洞窟で神から啓示を受け、預言者として、礼拝や喜捨などの宗教的義務を果たし敬虔な信仰生活を送るべきことを説いた。

子孫が国民を形成するという神の約束を受けて見知らぬ土地に旅立ち、神の試練として、ひとり子を燔祭としてささげるよう命令を受けたときも服する姿勢を示した。

王子として生まれ育ったが、死や病気に直面する人間の苦しみについて思い悩み、王家を出て真理に達し、人々にそれを示した。

古代イスラエルの王としてエルサレムを首都と定め、後に彼の子孫の中から救世主が現れるとする思想が生まれた。

異民族による支配は、多神教の影響による宗教的な墮落や貧者を虐げる社会的不正に対する神の罰だとして、神の裁きと救済を説いた。

王の宮殿で育てられたが、荒れ野で啓示を受け、奴隷となっていた同胞を約束の地へと向かわせ、神から授けられた掟を人々に示した。

問3 空欄 [A]に入れるのに最も適当な新約聖書の引用文を、次の ~ のうちから一つ選べ。[5]

「今こそこの世がさばかれるとき。今この世の支配者が追放される」という

「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」という

「悪い者の上にも良い者の上にも、太陽を昇らせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らしてくださる」という

「私が来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思ってはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ」という

問4 下線部(b)に関して、イエスが罪人に救いを約束した理由として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[6]

イエスは、最後の審判と神のさばきを否定したから。

イエスは、律法と預言者を廃することが罪人を救うことだと考えたから。

天の父なる神は、他者をないがしろにすることを罪とは認めないから。

天の父なる神は、悔い改める罪人をゆるす無限の慈愛を持っているから。

問5 下線部(c)に関して、イエスの律法主義批判の言葉として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[7]

あなたたち偽善者は不幸だ。白く塗った墓に似ているからだ。

安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない。

あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まずこの女に石を投げなさい。

人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。

問6 下線部(d)に関して、イエスの解いた愛の思想として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[8](2004年センター本試験より)

友人が暴漢などに襲われている場合、我々は速やかにその友人に手を差し伸べるべきである。たとえ命を落とすことになっても、友人を助けることは優れた愛である。

困っている人から哀願されたとき、我々はその人に同情し、その願いを聞き届けたいと思う。実現が難しくとも、我々はその憐れみの情を大切にすべきである。

道端にたたずむ流浪者のような、自分にとって疎遠な人などよりも、我々に親しく優れた人とともにいる方がよい、つまり同じ社会に生きる親しく優れた人々こそ我々は愛すべきである。

我々に親しい友人だけでなく、我々を嫌い敵対する者をも愛するようにしよう。自分を愛してくれる者を愛するのは当たり前であり、自分に敵対する者をさえ愛すべきなのである。

問7 下線部(e)に関して、福音書に描かれるイエスの処刑の際のエピソードとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[9]

イエスは2人の弟子たちとともに捕らえられ、ゴルゴタの丘で十字架につけられた。イエスは、自らを十字架につける者たちが赦されるよう、父なる神に祈り求めた。民衆はイエスの処刑の取消しを求めたが、ピラトゥスはそれを認めようとしなかった。イエスは十字架上で死なず、仮死状態のまま埋葬されたために3日後に蘇生した。

問8 新約聖書の福音書の組み合わせとして、最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[10]

マタイによる福音 - マルコによる福音 - ルカによる福音 - ヨハネによる福音
トマスによる福音 - マルコによる福音 - ルカによる福音 - ペトロによる福音
トマスによる福音 - マルコによる福音 - ルカによる福音 - ヨハネによる福音
マタイによる福音 - マルコによる福音 - ルカによる福音 - ペトロによる福音

第2問 次の文章を読み下の問い(問1～問14)に答えよ。(配点30)

キリスト教は「(a)復活のキリスト」に会う体験をした人々の、イエスこそ(b)メシアであるとの告白に始まる。教会(エクレシア)は(c)使徒ペテロを指導者として宣教し、離散のユダヤ人を中心に、ユダヤ教の枠を超えて拡大した。かつて熱心なパリサイ派としてキリスト教を迫害していた(d)パウロは、復活したイエスに出会う体験を通して[11]した後、ローマ帝国の異邦人に伝道し、キリスト教の世界宗教化の基礎を築いた。原始教会の雑多な内容は、4世紀頃、古代教会の教義と組織の確立によって統一された。

ローマは約250年間、キリスト教を弾圧した。しかし4世紀には、広大な帝国を統一する手段として(e)キリスト教を公認し(313)、(f)教義の統一を図り(325)、国教化した(392)初期の5つの主教座のうち、国教化で首都の教会の権威が高まり、(g)西のローマ教会からカトリシズム、東方からギリシア正教が発達した。

ヘレニズム世界への普及は、ギリシア哲学との思想対決と融合を生んだ。(h)アウグスティヌスなど、主にプラトン主義を援用して教義確立に努めた指導者を教父という。ラテン教父の一人[12]はギリシア語とヘブライ語に通じ、405年頃にはラテン語訳聖書ウルガータを完成させた。ウルガータは中世初期には西欧全域で広く用いられるようになった。

中世教会の思想(神学)は修道院で発達し、13世紀の(i)トマス・アクィナスが、主にアリストテレス哲学を援用して、キリスト教思想の理論体系(スコラ哲学)を大成した。東方教会は15世紀まで古代教会の伝統を保ち、以後ロシアに普及した。

問1 文中の[11][12]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

[11] 懺悔 免償 改心 回心

[12] ペラギウス ヒエロニムス テルトゥリアヌス オリゲネス

問2 下線部(a)復活の信仰に関して、その説明の記述として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[13]

イエスの復活は、人間にとっても死が終わりではないことを保証するものである。

イエスの復活によって、人間は転生の希望を持つことができるようになった。

イエスの復活によって、人間は悔い改める必要がなくなった。

イエスの復活は、善なる神に対抗してきた悪なる神への勝利を意味する。

問3 下線部(b)に関して、メシアを意味する言葉として適当でないものを、次の～のうちから一つ選べ。[14]

救世主 天の父 王 油を注がれた者

問4 下線部(c)に関して、ペテロについての記述として、最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[15]

「使徒」を自称するが、イエス死後、信仰の道に入ってきたため、イエスの直弟子ではなく「最後の晩餐」に連なった 12 使徒の中には数えられない。

イエスが復活したという他の弟子たちの言葉を信じなかったが、実際に復活したイエスを見た時には感激し、「私の主、私の神」と言った。

祭司長たちと群衆をイエスのもとに案内し、接吻することでイエスを示して引き渡し、銀貨三十枚を得た。

イエスにより、「岩」というあだ名で呼ばれるとともに、「私はこの岩の上に私の教会を建てる」とされた使徒の中の長。

問5 下線部(d)のパウロについて、その基本思想として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[16](2005 年センター本試験より)

人間は律法の行いによってではなく、イエス=キリストによる贖罪を信じることによって、罪から救済される。

人間は律法の行いによってではなく、イエス=キリストによる教説を知ることによって、罪から救済される。

人間は律法の行いによってではなく、イエス=キリストを政治的指導者として崇めることによって、罪から救済される。

人間は律法の行いによってではなく、イエス=キリストを偉大な預言者として敬うことによって、罪から救済される。

問6 次の文はパウロの手紙(『コリントの信徒への手紙 1』)の一部だが、文中の空欄[A] [B]に入る言葉の組み合わせとして最も当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[17]

それゆえ、[A]と、[B]と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

[A] 真理 [B] 希望

[A] 信仰 [B] 希望

[A] 信仰 [B] 勇気

[A] 真理 [B] 勇気

問7 下線部(e)に関連して、キリスト教の公認した皇帝の名前とその勅令の組み合わせとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[18]

ディオクレティアヌス帝によるナント勅令

コンスタンティヌス帝によるミラノ勅令

テオドシウス帝によるミラノ勅令

マルクス・アウレリウス帝によるナント勅令

問8 下線部(f)に関連して、ニカイア公会議で正統な教義として確認された三位一体説についての記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[19]

父なる神と子なるイエスと聖霊は、あらゆる意味において同一であり、一切の区別は存在しない。

父なる神の唯一絶対性を強調し、子なるイエスは「神の子」であっても、神に等しい永遠者ではなく、聖霊は父なる神からのみ生じる。

キリストには神と人二つの人格ないし実体があり、さらに聖霊を加えて三つの実体が神の本性である。

父なる神と子なるイエスと聖霊は三つの異なる位格をもつが、本質においては一つの実体として存在する。

問9 下線部(g)に関連して、東方正教会 (Eastern Orthodox Church) のオーソドクスが「正統」という意味であるのに対して、カトリック(Catholic)の意味として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[20]

特 殊

伝 統

異 端

普 遍

問10 下線部(h)アウグスティヌスについて、彼の原罪についての考えを説明したものと
して最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[21](2005年センター試験より)

原初の人間が自由意志を悪用して神に背いたため、すべての人間は生まれつき原罪を負っている。それゆえ人間は自由意志によってではなく、神からの一方的な恩恵によってのみ救済され、善に向かうことができるようになる。

人間は、天地の初めから、生まれつき自己中心的な性質を神に負わされている。その性質こそが原罪である。人間は自らの自由意志によって神への信仰を選び取り、それを通して神の恩恵を獲得しなければならない。

この世は善と悪という対立し合う二つの原理から成り立っており、すべての人間は悪の原理、つまり原罪に支配されている。人間は、神に従順であった頃の原初状態へと復帰し、そこに全面的に没入することで救済される。

すべての人間は、原初の人間のふるまいに起因する不道德な欲望、つまり原罪を負っている。それゆえ人間は、理性の指導に従い神の实在を論証していく過程を通して、この欲望から解き放たれていき、やがて救済される。

問11 アウグスティヌスの著作『神の国』に関する記述として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[22]

自己をさげすみ神を愛することによって作られる「神の国」は教会共同体の中に実現されることが期待されている。

滅びつつある西ローマ帝国に見られるのは、神をさげすみ自己を愛する「地の国」である。

物質世界を創造した旧約の神に由来する「地の国」に対して、霊的世界をつかさどる新約の神に由来する天上の「神の国」がキリスト者の理想である。

地上で争ってきた二つの国は、世の終わりの時に、「地の国」は永遠の劫罰を受け、平和に満ちた「神の国」が勝利して天上の至福にあずかる。

問12 下線部(i)のトマス・アクィナスについての記述として、最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[23](2003年センター本試験より)

一切は神から必然的に生じるものであり、倫理的問題に関しても、永遠の相のもとで事物を考察することによって判断されなければならないとした。

信仰と理性は相互に分離された異質な領域に属しており、神にかかわる信仰的实践を哲学によって基礎づけることはできないとした。

人間の救済と滅びは神によってあらかじめ決定されており、人間は合理的で正しい行為によってもその決定を変更することはできないとした。

信仰と理性の区別を体系的に論じて、信仰の優位のもとで両者の統合を試み、倫理思想に関しても自然的徳は神の恩恵によって完成されるとした。

問13 トマス・アクィナスに関する記述として適当でないものを、次の～の中から選べ。[24]

アルベルトゥス・マグヌスのもとで神学を学び、アルベルトゥスの思考法・学問の影響によってトマスはアリストテレスの手法を神学に導入した。

アウグスティヌス以来のネオプラトニズムに加えて、アリストテレスを研究するだけでなく、アヴェロエスなどのアラブの哲学者たちの著作を読んでその影響を受けた。

フランシスコ修道会に入って後オックスフォード大学で神学を学び、神の絶対的な超越性を確立して神以外のすべての実在の根元的な偶然性を示そうと試みた。

普遍論争においてはアリストテレス的なゆるやかな実念論の立場をとり、普遍は個物においてのみ実在すると説いた。

問14 トマス・アクィナスの著作として最も適当なものを、次の～の中から選べ。[25]

告白

自然学

キリスト教綱要

神学大全

第3問 次の文章を読み下の問い(問1～問19)に答えよ。(配点50)

紀元前2300～前1800年を中心に、現在のパキスタンの領内にあるモヘンジョ・ダロとハラッパーを二大中心地としてインダス文明が栄えていた。その出土品のなかには当時の宗教や慣習などを暗示するものがあるが、当時の思想を知ることは現段階では不可能である。この文明の終末とほぼ同じころ、アーリア人が西北インドに進入し、この文明の遺跡の近く、パンジャブ地方に定着して、前1200年を中心に聖典『リグ・ヴェーダ』を編纂した。その後、前500年ころまでに主要なヴェーダ聖典が編纂され、いわゆる(a)バラモン教の根本聖典が整備された。ヴェーダの宗教は多神教であり、主として太陽神スーリア、火神アグニなどの自然神や、武勇神インドラ(帝釈天)、司法神バルナ(水天)のような擬人化された神などが崇拜されている。人間の身体は死とともに滅びるが靈魂は不滅であると信じられ、死後、最高天にある理想境ヤマ(閻魔)の王国に行って福楽を受けると考えられ、地獄の観念はいまだなく、楽天的な人生観、世界観を抱いていたらしい。

(b)ウパニシャッドの時代になると、祭式や最高神への関心は薄れ、知識が重視され、宇宙の根本原因として非人格的な一元的原理を追求するに至り、その結果到達された諸原理のなかでもっとも重要なものはブラフマン(梵)と(c)アートマン(我)とである。ブラフマンはすでに宇宙の非人格的最高原理の地位に高められ、またアートマンは個人の本体、自我を表す術語として、ウパニシャッドにおいてもそれ以後においても重要な地位を保つ。後代のインド哲学の主要な性格を決定する(d)業(カルマン)と輪廻(サンサーラ)の思想もウパニシャッドにおいて明確化した。

前500年ころになると、社会的大変動を背景に、(e)反バラモン教的な自由思想家(沙門)が輩出したが、なかでもマハーヴィーラは(f)ジャイナ教を、(g)ゴータマ・ブッダ(仏陀)は仏教を創始した。仏教は形而上学的諸問題に関しては益なきこととして判断を中止し、形而上学的実体であるアートマンを想定せず、無(非)我説の立場にたち、(h)いっさいは苦であると認識して、その原因を明らかにし、それを断じて(i)涅槃(ニルヴァーナ)を実現すべきであるとして、(j)四諦・(k)縁起説などの教えを説き、四姓平等を唱え、(l)八正道すなわち中道の実践を勧めた。

前4世紀マウリヤ王朝が全インドを統一、その宰相カウティリヤは「君主は国家である」と主張したが、[26]王は武力による征服を放棄し、法(ダルマ)による征服を政治理想とした。彼の支持のもとに仏教はインド全域に広がり、さらに南方アジア諸国に伝播したが、おそらく彼の時代に(m)二派に分かれ、その後さらに分裂を重ねた。

前1世紀ころから、仏陀を信仰の中心に置き、仏徳をたたえ、菩薩行を説く新しい運動が、仏塔を中心に集まった説教者を指導者とする[27]の集団のなかから起こったといわれる。(n)自ら大乘と称し、旧来の仏教を小乗と貶称し、般若経類、華嚴経類、『法華経』、浄土教経典類など、膨大な大乘経典を編纂した。

問1 文中の [26] [27] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの ~ のうちから一つずつ選べ。

- | | | | | |
|--------|-------|------|--------|-------|
| [26] | アショーカ | アジャセ | スッドーダナ | カニシカ |
| [27] | 上座部 | 大衆部 | 在家信者 | 出家修行者 |

問2 下線部(a)に関して、バラモン教とヒンドゥー教に関する記述として、最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [28]

古来の正統バラモン教に、非アーリヤ系の民間信仰を取り入れて発展したのがヒンドゥー教である。

バラモン教において、ブラフマー神・ヴィシュヌ神・シヴァ神の三神は一体をなすとされる。

ヒンドゥー教にはバラモン教のような四つのヴァルナに基づく身分制度は存在しない。バラモン教とは異なり、ヒンドゥー教では『マハーバーラタ』や『ラーマヤナ』などの叙事詩を重視することはない。

問3 下線部(b)「ウパニシャッド」を意味する言葉として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [29]

- 知 識 伝 承 厭 世 奥 義

問4 下線部(c)に関連して、古代インドのウパニシャッドで追求された、輪廻を脱した境地の説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。 [30] (2006年センター本試験より)

アートマンを創造した神の行為を認識し、神の慈愛による救済を通して、永遠性を獲得した境地。

アートマンの中に変化しない要素はないことを認識し、執着をすてて永遠性を獲得した境地。

アートマンと宇宙的原理が同一であることを直感し、それによって永遠性を獲得した境地。

アートマンが存在のよりどころとしている身体を不滅なものにすることによって、永遠性を獲得した境地。

問5 下線部(d)に関連して、業(カルマン)を説明する記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[31]

結果をもたらす力を持つとされる行為。

人や動物が何度も生まれ変わる事。

あらかじめ定められた運命や宿命。

讃歌や祈りを象徴的に表現した言葉。

問6 下線部(e)に関連して、いわゆる六師外道の思想家として適当でないものを、下の ~ のうちから一つ選べ。[32]

マッカー・ゴースーラ プーラナ・カッサパ

マハーヴィーラ ゴータマ・ブッダ

問7 下線部(f)に関連して、ジャイナ教の開祖ヴァルダマーナ(マハーヴィーラ)の教説として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[33](2006年センター本試験より)

人間の行為の善悪の究極的な基準は存在せず、悪行を行う人を非難する根拠もなく、善行も賞賛の対象にはならない、と説いた。

解脱を目指して徹底した苦行主義に立つとともに、生き物に対する慈悲の行為として不殺生を実践しなければならない、と説いた。

人間の思惟の形式は、世界の一部しか理解できない限定的なものであり、真理に到達するためには人間の思惟を否定しなければならない、と説いた。

運命によって人間の幸不幸は決まっており、人智の及ぶところではないので、いかに努力しても幸福になれるとは限らない、と説いた。

問8 下線部(g)のゴータマ・ブッダのエピソードとして伝えられている出来事の記述として最も適切なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[34]

母マヤ夫人から生まれた後すぐに立ち上がると七歩あるき、「天上天下唯我独尊」と唱えたという。

王城の四つの門から外出するとき、老人・病人・出家修行者と出会い苦悩を深めたが、葬列を見たとき、一度しかないこの生を出家修行に生きようと決意したという。

出家後、あらゆる苦行を重ねた末、断食修行中に人生の普遍的真理を体得し、仏陀となったという。

80歳の時、病に倒れて40日間眠り続けた後、弟子が見守る中、サールナートの沙羅樹林の双樹の間から、静かに天に昇っていく姿が見られたという。

問9 下線部(h)に関連して、苦とその原因、また苦を滅するための方法について述べた下の文の空欄 [35] ~ [37] に入る最も適当な用語を、下の ~ のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

人生には生老病死の四苦のほか、愛しい人に別れ、怨み憎しみある者に出会い、求めるものは得られず、この身は無常な諸要素つまり、[35] 肉体と感覚、表象、意思、認識の諸心理作用 の集合にすぎない、という合計 8 種の苦悩がある。この苦を集め起こすもの、つまり苦の原因としては、[36] と総称される心のけがれ、すなわち貪、瞋、癡などがある。無明とは無常、無我といった真実を知らないことで、ときにはこれが悪の根源とみなされる。[37] や執着はすべてこの無明の結果おこるとみるのである。苦の滅、涅槃寂靜が理想であること。これは無明がなくなったとき、つまり真実を知ったとき、悟ったときに実現する。

八正道	五 蘊	無 記	四法印	苦 諦
空	渴 愛	煩 悩	集 諦	

問10 下線部(i)の涅槃(ニルヴァーナ)の説明として最も適当なものを、次の ~ の文のうちから一つ選べ。[38]

煩悩の火を吹き消した状態	生命を失った状態
極楽へ往生した状態	苦しみを耐えた状態

問11 下線部(j)のゴータマ・ブッダが説いた「四諦」(四聖諦)のそれぞれについての説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[39](2003 センター本試験より)

「苦諦」とは、苦を引き起こす原因として、無知、欲望、執着といったもろもろの心の煩悩があるという真理である。

「集諦」とは、理想の境地に至るためには、八正道の正しい修行法に集中すべきであるという真理である。

「滅諦」とは、煩悩を完全に滅することで、もはや苦が起きることのない平安の境地に達するという真理である。

「道諦」とは、あらゆる事物が存在し変化していくには、必ず依拠すべき道理があるという真理である。

問12 下線部(k)縁起説を説明した經典の記述として最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[40]

母がその独り子を己が身命を賭しても護るように、一切の生きとし生けるものどもに対しても、無量の慈しみの心を起こすべし。

二つの葦束は相依って立つであろうということである。それらの葦束のうち、そのいずれか一つを取り去ったならば、他の一つも倒れるであろう。

生まれによって賤しい人となるのではない。生まれによってバラモンとなるのではない。行為によって賤しい人ともなり、行為によってバラモンともなる。

欲望をかなえたいと望み貪欲の生じた人が、もしも欲望をはたすことができなくなるならば、かれは、矢に射られたかのように、悩み苦しむ。

問13 下線部(l)に関連して、仏教における言葉の問題についての記述として、最も適当なものを、次の～のうちから一つ選べ。[41](2004年センター追試験より)

言葉は無常なる存在であるが、正しい言葉を語ることは、正しい実践の重要な要素とされ、いわゆる「八正道」の一つに挙げられている。また、嘘をつくことは、言葉による苦しみとして四苦の一つとされている。

正しい言葉を語ることは、正しい行為、実践をすることとは別であるとされ、いわゆる「八正道」には含まれない。一方、嘘をつくことは、言葉による苦しみとして四苦の一つとされている。

言葉を含めすべての存在は無常な存在であり、言葉を語ることや嘘をつくことは、無常な存在に執着することである。したがって、両者ともに本質的にはむなしいこととされ、苦しみの原因として「集諦」に含められている。

正しい言葉を語ることは、いわゆる「八正道」の中の一つとして、正しい実践の重要な要素と考えられている。また、嘘をつかないことは、殺生をしないことなどととも、いわゆる「五戒」の中に挙げられている。

問14 下線部(m)に関連して、部派仏教についての記述として適当でないものを、次の～のうちから一つ選べ。[42]

釈尊入滅から約100年後、教団は保守派の上座部と改革派の大衆部に分裂した。

部派仏教においては、慈悲を重視して利他行に励んで修行を続けるものを菩薩と呼んで尊重した。

上座部と大衆部20派を合わせて部派仏教と呼ぶ。大衆部は大乗仏教の源流とみなされたこともあったが、現在はこの説は否定されている。

南方アジアに伝播した上座部仏教では、釈尊によって定められた戒律と教え、悟りへ至る智慧と慈悲の実践を純粋に守り伝える姿勢を根幹に据えてきた。

問15 下線部(n)に関連して、大乘仏教の教説として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[43]

経典は読誦したり、書写したりすることにも功德がある。

食事は托鉢によって午前中に終わらせ、食事の貯蔵をしてはならない。

すべての生きとし生けるものは仏となる本性を備えている。

自分ばかりでなく多くの人を救うものが真の仏教である。

問16 大乘仏教の思想に関する次の文中の空欄[44][45]に入る最も適当な人名を下の ~ のうちから一つ選べ。

[A] すべての衆生に仏性があるとする『宝性論』によって体系化された主張だが、ついに独自の学派を形成することはなかった。

[B] いっさいの存在を認識の主体と客体とに分け、客体のよりどころとして認識主体阿頼耶識という精神原理を想定し、三性説によって存在の真相を明らかにしようとした。開祖については異論があるが、[44]らによって確立された。

[C] 大乘経典中『般若経』は空を強調するが、[45]は空に大乘仏教の本質をみだし、空こそ仏陀の教える縁起であり、中道であると主張した。

竜樹 無著 菩提達磨 玄奘

問17 大乘仏教の思想に関する上の文中の[A][B][C]の説明について、最も適当な学派・学説・思想名を、次の ~ のうちからそれぞれ一つずつ選び、[A]は[46]に、[B]は[47]に、[C]は[48]に答えよ。

中観派 如来蔵説 浄土思想 唯識派

問18 大乘仏教の思想家、ヴァスバンドゥ(世親)の思想の説明として最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。[49](1995年センター追試験改題)

すべての事物は、認識する心の働きの所産にすぎず、実在しないとする唯識の思想の発展に大きな貢献を果たした。

法華経に深く傾倒し、すべての人が仏になれるとする一乗思想を強く主張した。

自己の内なる仏性を確信して、ひたすら坐禅に徹することが肝要であるとする、禅の思想を体系化した。

縁起説を深化・発展させ、すべての事物は因縁によって生じたもので、固定的な実体を持たないとする空の思想を理論化した。

問19 「智慧」をあらゆる波羅蜜として最も適当なものを次の ~ のうちから一つ選べ。[50]

般若 檀那 禅那 毘梨耶